

ちば地域再生リサーチ 編

服部岑生・鈴木雅之
陶守奈津子・東秋沙・金森敬明 著



C h i b a 3
R e g i o n a l
R e v i t a l i z a t i o n
R e s e a r c h

市民コミュニティ・ビジネスの現場

建て替えない団地再生のマネジメント

はじめに 創造力のあるコミュニティへ

《ちば地域再生リサーチ》は、大規模な団地のコミュニティ《高洲・高浜地区》が直面する課題の解決に挑戦してきました。1970年代に一気に建設された海浜ニュータウンは、人口がおおよそ11万人で高齢化の波が押し寄せています。その兆候として、すでに若者・子どもの姿が少なくなり、小中学校の閉校が軒並み起こっています。町には、高齢者の姿が、急に増えてきました。さらに高齢化は低所得化につながり、近隣ショッピング・センターは空き店舗が増え、半分以上の店舗が閉店している商店街がなくなりました。もともと急造のコミュニティで、地域に根付いた文化活動が盛んではないのですが、人々の生活が活気に満ちているとはとうていいえません。

団地のほとんどを占める住宅は、築30年を超えるものが80%に及び、建替えが予定されていましたが、多数を占める公共住宅は国家の方針でこのまま使われ続けることになりました。新規の住宅建設が減少し、中古住宅の売買が停滞すると、住宅地が衰退していきます。住まいの売却で得た資

金を住宅購入に充てて住み替え、住まいを改善していく居住水準の向上が望めない事態は、コミュニティに大きなストレスとなっています。

私たちの活動するコミュニティ《高洲・高浜地区》は、現代の住宅地コミュニティの衰退の縮図といえると思います。

多くの衰退するコミュニティを、どのように再生していくべきでしょうか。

人には、いい学校で教育を受け、いい大会社にサラリーワーカーとして就業し、ゆとりのある持ち家を手入れし、そして幸福な結婚をするという人生の節目にあたって、多くの人が持つ夢があります。私たちの身近な環境から、子どもたちの学校の様子や商品の流通の仕組み、さらに生活費を獲得する仕事の雇用関係などを見てみましょう。進学競争の中でいい学校への入学を志向します。生活用品を買うときには、サービスの良い大手のスーパー、コンビニが重要度を増しています。働く会社についても、大企業に就職したいという願いがあります。このような安定や幸福が保証されていると考えられる人生は、現代の代表的な《幸福な人生の構図》といえると思います。

しかし私たちは、東日本大震災後の社会で、従来同様に、安定していると考えてきた社会をそのまま復興していいのかという疑問を持ち始めました。安全・安心の住宅や都市の復興は急務ですが、コミュニティの再建では、どのようなコミュニティを再生すべきなのか、見いだすことができません。現代の社会は多くの欠点を持っています。過去の地域社会を理想として再生すべきであるという考え方がありますが、それでいいのでしょうか。さらに、危険性のある原子力発電の存続・廃止問題は、現代の社会のシステムを変えていく必要を象徴的に示しています。今までにない困難

な課題を突きつけられて、私たちは《幸福な人生の構図》の考え方に疑問を持ち、それを支えている社会のシステムを変えていかなければいけないという意識が出てきました。

本書では私たちが実践したコミュニティ再生の方法として、個人だけで生きる社会から、協力する社会⇨コミュニティづくりの道を訴えます。

私たちの課題は、《幸福な人生の構図》が、必ずしも実現が容易でないことに気がつき、私たちの努力で解決できる方法を探り、協力による解決を求めることです。

実現を阻む大きな要因は、まず《幸福な人生の構図》の前提となる確実な社会のシステムが、これまでの歴史において存在したことがないのではないかという疑問です。単なる想像の産物ではないかと考えられることです。それにもかかわらず、私たちは、現在の社会の仕組みに過大な期待を持っていると考えられないでしょうか。市場の競争を前提とする社会では、個人の自己実現の価値観に固執すると、自分はや望を持つ立場で、要求を満たすのは社会という一方向的な関係でどうしても考えます。人々との協力でなく、社会側の公共の政策や市場のサービスの改善を要求します。他の人との協働を志向する変化や革新でなく、政治や市場のサービスの改善を求めようになります。その結果、人々の多くは、不満があっても社会のシステムに依存し多くはそれを受け入れるようになります。

この考え方は、課題は改善できません。しかし、目の前の社会システムの、競争を前提にする価値観を方向転換し、コミュニティのネットワークで協力するような社会づくりを目指すことができます。私たち《ちば地域再生リサーチ》が実現しつつあるような解決の道を見いだせます。

私たちは、特に同じエリアに住む人たちと協力し、地域コミュニティの暮らしやすさを探求して

いくべきだと考えます。協力の目標は、暮らしにくい要因を排除し、暮らしやすいシステムを自分たちなりにつくり上げることです。依存から脱し、自らがコミュニティの協力とつながりを創造することが重要です。

そうすることで、地域コミュニティが、自分たちの味方になり、市場や制度のシステムの制約を乗り越え、人間的なコミュニティのシステムになっていくと思います。その中で、公共や市場に依存する《幸福な人生の構図》が私たちの最高の目標ではないことに気づいていきます。その結果、市民による解決への創造力を持つコミュニティの力(コミュニティ・ガバナンス)が生まれてきます。

本書は、私たち《ちば地域再生リサーチ》が、以上の考え方を貫き挑戦した記録です。現在の体制である社会のシステムが押しつけになり、制約になっていくという事実を見つけて、愕然とし、怒り、それに挑戦し、コミュニティ・ガバナンスを築こうとした記録です。その挑戦の対象は、ある場合は社会のシステムの大きな構成部分であるグローバルな市場経済であり、ある場合は「公共」という名前で押しつけを行っている体制でした。また、ある場合はコミュニティの人々の個々に潜んでいる自己中心的な価値観でした。

さらに、挑戦の方法は今までにない困難があり、多くの工夫と地元の人たちとの連帯を通して、《再生の市民コミュニティ・ビジネス》の方法を探求しました。私たちは、建築の専門家集団ですが、その考え方、知識と技術が地域のコミュニティを変えていくのに、基本的に有効であることを証明しました。建築学は、等身大の人の目線の学問であることにあらためて気づき、誇りと幸せを感じました。

ほぼ10年余の活動を経て、海浜ニュータウンが創造力のあるコミュニティに変化していく流れが見えてきた現在、多くの人たちに私たちの新しい《協力によるコミュニティづくり》とその可能性をお伝えしたいと考えました。

2012年8月25日

執筆者を代表して

服部岑生

はじめに 創造力のあるコミュニティへ 3

PART 1 ちば地域再生リサーチとは何か

コミュニティ・システムの更新 14

1

コミュニティの衰退と生命 17

1.1 住宅地のシステムのリストアートと更新の手法 17 1.2 コミュニティ・システム更新のための方法 24

2

限界のコミュニティ 30

2.1 住宅地の現在と運命 30 2.2 低い評価になる事情 33 2.3 重症化現象とその理由 37

2.4 課題解決へのアプローチ 41 2.5 コミュニティ・ガバナンス 44

3

ちば地域再生リサーチの設立 50

3.1 研究から実践への決意 50 3.2 ちば地域再生リサーチの設立 55

3.3 ちば地域再生リサーチの事業の目標 64

PART 2 ちば地域再生リサーチの活動のすべて

六つの活動の柱 84

5

住まいのリペア・リフォーム 92

5.1 ハウス・リペア 92 5.2 リペア部品 95 5.3 DIY(ドゥ・イット・ユアセルフ) 98

5.4 仮設カスタマイズ支援 102 5.4 団地リフォーム 102 5.5 高齢者向け最小限リフォーム 110

5.6 ハイブリッド・リフォーム 112 5.7 リフォーム普及 116 5.8 リフォーム作業者のネットワーク 119

5.9 住まいのリペア・リフォーム活動ができるまで 123 1 Column リフォーム用語(中古の住まいとつきあい) 129

6

コミュニティ・暮らしサポート 131

6.1 買物サポート・御用聞きサービス 131 6.2 安否確認 135 6.3 ワンストップ・サービス 136

6.4 憩いの居場所づくり 138 1 Column 田舎交流 140 6.5 コミュニティ・暮らしサポート活動ができるまで 140

4 ちば地域再生リサーチの戦略 68

4.1 住まいと町の再生コミュニティ・ビジネス 68 4.2 セルフ更新の仕組みづくり 75

4.3 包括的な団地再生 78

7 団地学校 143

- 7.1 文化教室 143 — 7.2 日本語教室 148 — 7.3 環境学習教室 149 — Column 団地地図づくり 151
- 7.4 住民講師リソース 152 — 7.5 団地学校活動ができるまで 154

8 コミュニティ・アート 159

- 8.1 アートコミュニティ美浜 159 — 8.2 参加型アート 163 — 8.3 創造海岸アート祭 169 — 8.4 アーティスト住民 170
- 8.5 コミュニティ・アート活動ができるまで 171 — Column アートとしての住宅 172

9 エリア経済の活性化サポート 176

- 9.1 近隣型ショッピングセンターのコンバージョン 176 — 9.2 生活施設評価 180 — 9.3 空き店舗活用 182
- 9.4 商店街サポート 183 — 9.5 リモデル・リフォーム 185 — 9.6 マッチング流通・住替え支援 191
- Column 二地域居住 193 — 9.7 居住者ワーカーサポート 193 — 9.8 エリア経済の活性化サポート活動ができるまで 197

10 住まい・町再生サポート 206

- 10.1 団地・住まいの問題研究 206 — 10.2 団地再生検討部会 212 — Column 団地研究の限界 213 — 10.3 管理組合サポート 214
- 10.4 空家活用 216 — 10.5 住まい・町再生サポート活動ができるまで 220 — Column 海外再生事情 222

PART 3 マネジメントとパートナーシップ

事業収益と地域貢献の両立 228

11

事業のマネジメント 230

- 11.1 事業メリットの創造 230 — 11.2 資金調達のコツ 234 — 11.3 活動のPR 237 — Column 業績表彰 238
- 11.4 人材コーディネーター 240

12

コミュニティ・システム更新のためのパートナーシップ 242

- 12.1 パートナリシップの意味 242 — 12.2 行政とのパートナーシップ 245 — 12.3 民間企業とのパートナーシップ 247
- 12.4 地域組織とのパートナーシップ 249 — 12.5 大学とのパートナーシップ 250 — Column 大学の限界 253

13

コミュニティの診断 254

- 13.1 コミュニティ・ガバナンスのある町 254 — 13.2 コミュニティ活動と目標達成の透明化 256
- 13.3 指標の測定 259

おわりに 262

ちば地域再生リサーチ「六つの活動の柱」の年表 271

PART 1

ちば地域再生リサーチとは何か



高層棟より海浜ニュータウンを見る。ここは、1970年代に建設された日本を代表する大規模ニュータウンのひとつ

コミュニティ・システムの更新

日本の団地やニュータウンは、建替えが計画できないことが多く、人々はそのまま住み続けるしかありません。《ちば地域再生リサーチ》は、そのような住宅地の更新を行いコミュニティの寿命を延ばす日本で最初の組織です。古い団地やニュータウンでは、建替えによる再開発で、新しく再生していくことが、これまでの方法でした。しかし、私たちのいう再生は、建替えによる再生でなく、建替えをしない再生です。そういう再生を、更新といいます。コミュニティは、人のネットワークを継承し、暮らしやすさを増やし新しくします。私たちは、住宅地の現実を踏まえ、歴史のある住宅地のコミュニティ・システムの更新に挑戦しています。

私たちは、海浜ニュータウンの高洲地区の商店街に拠点を設け（2004）、リフォームの生活サポートを中心にしたコミュニティ・ビジネスを始めました。現在、運営は発展し、コミュニティが参加する市民コミュニティ・ビジネスになり、宅配・居場所づくり、団地学校・アートフェスタを加え活動は多様化しています。

当初、私たちが目指した「コミュニティ像」（住宅地像は、建替えによる効率的（コンパクトな住宅配置を実現することで、大規模な住宅地の再開発計画をいかに進めるかが課題でした。しかし、国の判断により、海浜ニュータウンの住宅の過半を占める比較的新しい公共賃貸住宅（1965以降の建設）は、建替え方針が変更され、築年数の経った現状の住宅を活用し続けることになりました。その時から、私たちの事業目的は建替え計画からストック性能の維持・向上計画へと変化し、リフォームの重要性が増していきました。

私たちだけでなく、関係する千葉の住宅行政、地元の市民自治組織なども、国の方針転換に大いに戸惑いました。そこで、海浜ニュータウン再生に関わる地元関係者の組織、千葉地域再生構想研究会を設立し、主に次の四つのコミュニティのテーマに取り組むことになりました。私たちが目標とするコミュニティ像が、初めて見えてきました。これは、日本全体に展開することを目標としたものでなく、地域限定のコミュニティ更新の目標です。

●更新による持続的な郊外住宅地の追求

海浜ニュータウンのような東京への通勤が前提となる郊外住宅地は、東京都心部の住宅供給による人口流出が起こり、少子高齢化により衰退していくことが予想されます。若い人口が移住できる個性ある魅力的な住宅地づくりの競争が始まると考えました。そのために持続性のある暮らしやすいコミュニティ・システムづくりが活動の目標になりました。新しいライフスタイルづくりが課題です。

●第三の地域運営主体がサポートするコミュニティ

市場経済の活動と行政との中間に、地域生活をサポート・サービスする組織が生まれるといわれています^{*1}。地域の需要に対して、従来の非営利ボランティアなどの市民事業の活動が対応するという考えがありました。地域が必要とする生活サービスはさまざままで非営利組織だけでは対応できません。ビジネス的な活動で対価を得てサービスを提供する市場にない地域運営法人が望ましいという事です。私たちの活動は、市民が参加する市民コミュニティ・ビジネスで、先駆的なものだと思います。

●コミュニティ・ガバナンスのコミュニティ

リチャード・フロリダは、地域の特徴に人々の性格が適合したときに、都市が創造的になるといつています^{*2}。私たちは、コミュニティが創造力を持ち、問題に対処し、町を誇りに思うような段階に到達することを目標にしています。そして、これまでのコミュニティの歴史を継承して、人工的な計画都市から新しいコミュニティづくりを目指します。その結果、コミュニティが生活の自治を持つような段階に向かつて、「コミュニティ・ガバナンス」の実現に近づいていると思います。コミュニティ・ガバナンスは、いわゆる地域政府に対抗する形ととらえる保守的な考え方もありますが、政治にすべての課題解決を依存することでは実現性がありません。

●戦後住宅地の改廃・再生・ビジョン

都市の未来では、海浜ニュータウンのような生き続ける意欲を持つコミュニティの更新や、民間による部分再開発が各地で起こるでしょう。現代は人口増と経済発展の時代ではないので、ニュータウンや大規模再開発ではなく更新が各地で必要になり、過剰住宅はいずれ放棄される運命であるように思います。未来は、スクラップ・アンド・ビルドの再生ではなく、更新・部分再開発が、空家の放棄・スラム化と並行しつつ、団地や既成市街地のあちこちで起こっていく予感がします。いけると、再開発による都市の再生は東京都心などの一部を除き行われません。戦後の住宅地の未来の姿は、総合的な再開発は困難で放棄される住宅はスラムとなり、今後とも持続していく住宅地は更新と部分開発が行われる、ビジュアル的にはまだらなコミュニティという見通しになります。

*1 広井良典『定常型社会』岩波新書 2000

*2 リチャード・フロリダ（井口典夫訳）『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社 2009

I

コミュニティの衰退と生命

1.1 住宅地のシステムのリストアと更新の手法

衰退するコミュニティ・システム

大都市郊外の住宅団地では、大都市と同じように、人間関係が希薄になり、交流が少なくなってきました。

コミュニティ・ネットワークとして最も基本的な人のつながりは少しずつ失われて、その希薄な人間関係でコミュニティの機能が弱くなっています。コミュニティの居住者の孤独死や傷害事件は、人と人との関係が失われ、近隣の人々へのやさしい思いやりがなくなってきたことが大きな原因です。一通りの住まいが整備されて、コミュニティ・アコモデーションは確保されていますが、高齢化や貧困化によって手入れがおろそかになり、住まいも貧しくなっています。

ひとりの人間が生まれ、結婚し、高齢化し、死ぬまでの一生において、コミュニティ・システム

PART 2

ちば地域再生リサーチの活動のすべて



海浜ニュータウンの夏 (2012・8)

六つの活動の柱

ちば地域再生リサーチは、3章で見たように、「①多様なコミュニティの継承」「②コミュニティ・システムの更新」「③創造力のあるコミュニティづくり」「④新しいライフスタイルづくり」「⑤団地コミュニティの建替え・再編」という五つの事業目標を持っていきます。これらの事業目標を達成するための具体的な実行テーマを「活動の柱」と呼んでいます。活動の柱は六つあり、ちば地域再生リサーチの活動は、これらに沿って進みます。

一つ目は、住まいに長く住み続けられるように、団地特有の住まいの課題を読み取り、革新的な解決技術のメニューを次々に開発し、実践する「住まいのリペア・リフォーム」活動です。これは、主に事業目標①、②に対応します。

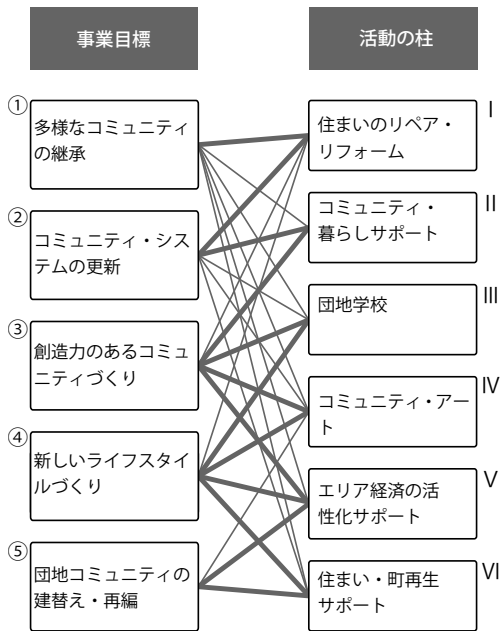
二つ目は、高齢者を中心とする居住者がコミュニティの中で、安全・安心に住み続けられるように、買物・安否確認から、居場所づくりまでのサポートをする「コミュニティ・暮らしサポート」活動です。これは、主に事業目標②、③に対応します。

三つ目は、専門能力があり就業意欲のある地元の居住者が講師になる居住者のための学校で、地域文化、生涯学習意欲、生活文化、暮らしの向上に貢献する「団地学校」活動です。これは、主に事業目標③、④に対応します。

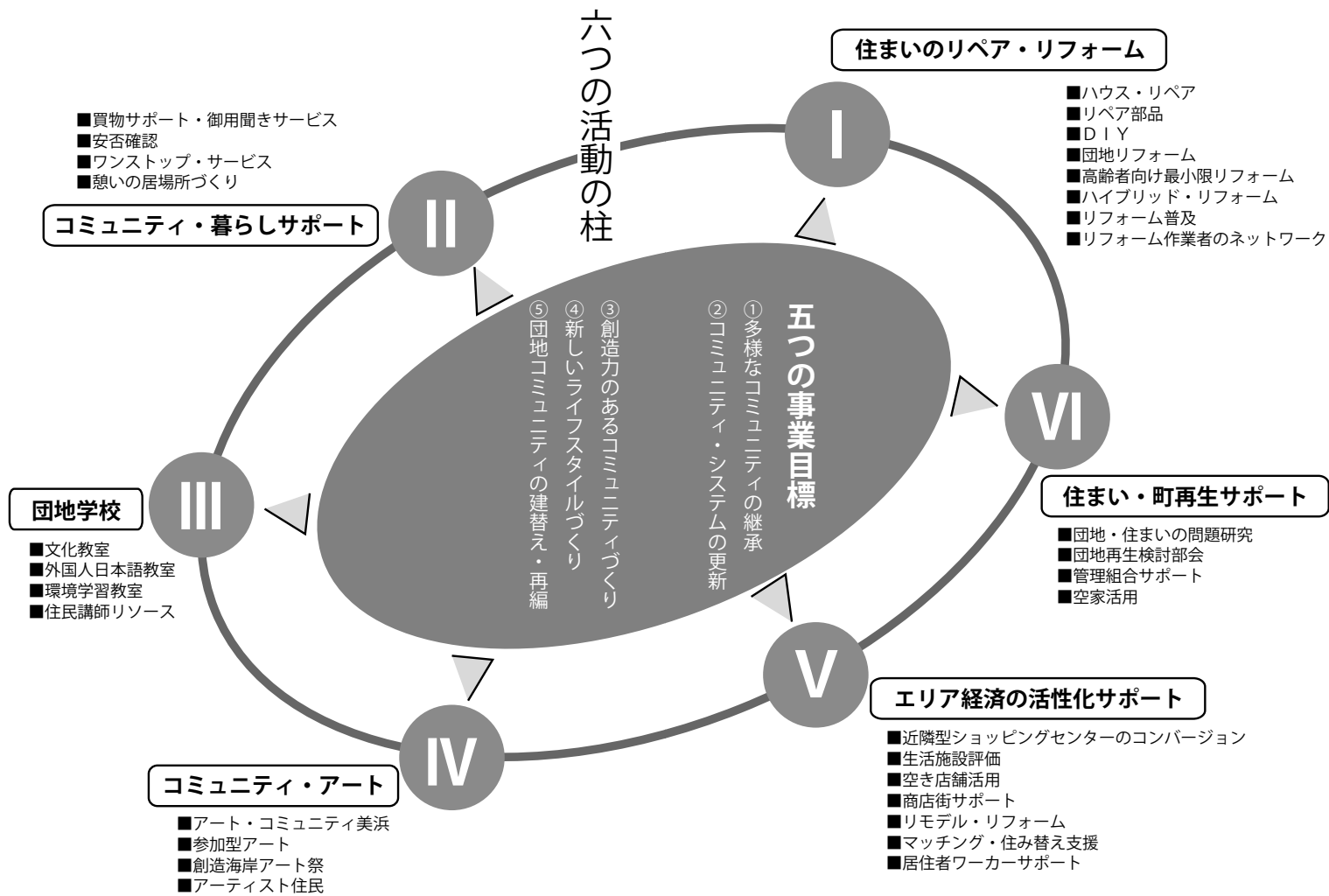
四つ目は、コミュニティの文化を育て、誇りと愛着の価値を創造する活動で、地域でのアート活動を居住者が主体となつて行いコミュニティ・ネットワークづくりへとつなげる「コミュニティ・アート」活動です。これは、主に事業目標③、④に対応します。

五つ目は、ショッピングセンターや商店街、ハウス流通、働く意欲のある居住者をサポートすることで、地域の経済の活性化を実現する「エリア経済の活性化サポート」活動です。これは、主に事業目標③、④、⑤に対応します。

六つ目は、住まいや暮らしの調査研究や、多様な地域主体との連携を通して、地域の課題を共有して戦略をつくり、住まいと町の再生を推進し、パートナーのサポートを行う「住まい・町再生サポート」活動です。これは、主に事業目標④、⑤に対応します。



CR3の事業目標と活動の柱の関係



CR3の事業目標と活動の柱の一覧

住まいに長く住み続けられるように、
団地特有の住まいの課題を読み取り、革新的な解決技術の
メニューを次々に開発し、実践する活動です。

5

住まいのリペア・リフォーム

5.1 ハウス・リペア

これから建替えがされないマンションの住戸は、居住者が自身の責任でリフォームやリペア（補修）を行い住み続けることとなります。公共の賃貸住宅でも、室内のリペアは同じ事情です。しかしながら、信頼できるリフォーム業者とめぐり合うことは容易ではなく、利用者が望む安価なリフォームのサービスは十分に提供されていません。大がかりなリフォームも家族のライフステージの転換などには必要ですが、居住し続けるうえで快適な住まいを保持したいという要望に対しては、「ハウス・リペア」が最適です。また、人生設計の中で将来の住替えや転居を控え必ずしも永住予定のない人や仮住まいの人などが、現在の住まいを快適にするための安価な修理へのニーズもこの地域では多くあります。



網戸の張り替えを行うスタッフと居住者

ここがポイント

◎活動の前提条件

- 大規模老朽化団地の類似リフォームニーズへの対応
- リフォーム会社のサービス網不在への対応

◎CR3の試み

- 築30年超の住戸の居住性能向上
- 高齢化に伴う最小限バリアフリー化
- 小規模住戸のリモデル

このようなりペアの要望に対して、地元の人材や業者とやりとりを繰り返しながらネットワークを構築していき、提供方法を工夫することで対応にあたっています。

当初、賃貸住宅を対象に開始したハウス・リペアの活動は、次第に分譲住宅へと広がり、注文も増えていきました。相談内容を分類した表(2011)を見ると、分譲・賃貸合わせて年間100件余りの相談を受けていますが、老朽化したものを張り替えることで一新したいという要望や、部品の摩耗や劣化を修理してほしいという要望が非常に多く、価格帯にして5万円以内で行える修理が多くあります。

ハウス・アダプテーション

ハウス・アダプテーションは、高齢者向けの住まいの、特にバリアフリー化を目的とするリフォームです。身体の負担を軽減するために、住まいに補助する装置や部品を設置し、使いやすく住みやすくします。たとえば手すりの設置、浴室の「すのこ」設置による段差解消、キッチン



fig5-2 柵としても使用できる手すり



fig5-3 浴室段差解消のためのすのこ

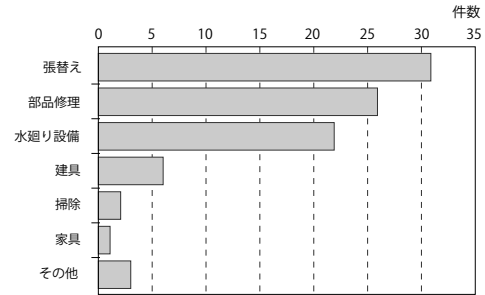


fig5-1 相談の内容別件数(2011年度)

のサポートバーの設置、靴を脱ぎ履きするための腰掛け椅子などがあげられます。製作した部品を、「取り付ける」あるいは「置く」だけで完成するものであると、住宅の中で作業する時間は短縮されます。そのため、この手法は団地の住まい改善を手ごろな価格で実現するのに非常に役立ちます。

5.2 リペア部品

ある賃貸の居住者宅の換気扇が故障しました。調べると、ねじ1本を交換すれば修理できることがわかりました。その居住者は賃貸住宅の管理事務所に問い合わせ、「ねじだけは販売していないので、換気扇を丸ごと取り替えてください」といわれたが1本のねじのために換気扇を丸ごと交換する気にはなれず、故障の状態のまま我慢しています。

この原因は、開発した会社がセットでの製品販売のみを代理店と契約しているため、部品販売が許可されていないことにあります。エンド・ユーザーの立場を第一に考えるならば、部品販売もできるようなシステムが必要でしょう。

団地のような30年以上を経過した住宅のあらゆる部品(ドアノブ、ドアクローザー、丁番、戸車など)のパーツは、このような理由や、開発当時のメーカーが倒産してしまっている場合も多く同一の



fig5-5 既存のものとビスピッチが違うため、アジャスターを必要とするドアクローザー



fig5-4 ねじ山間の寸法が異なるビス(上:古い住宅に使用されていたねじ 下:現在出回っているねじ)

型番が市場に回っていることはまれで、多くは外部に出ない部品になっています。たとえば出回っていないもの、同じものを見つけてくることは、一般にはまず困難です。住宅の各パーツは、それぞれビスピッチ（ビス穴間の寸法）やねじ山間の寸法、厚みなどがそれぞれに違い、型番が違えば交換が難しくなります。また、30年前当時に使用されていたビスの規格が現在のものと違うために、最近のビスでは取り換えることができない場合もあります。もし古いねじの頭の十字の部分で摩擦して使えなくなってしまうたら、同じピッチのビスをつくるほかにありません。このようなかゆいところに手が届くサービスもCR3の活動になります。

パーツリサーチ・パーツメイク

古くなり交換が必要になった住宅部品のパーツを、独自のルートでパーツリサーチができるネットワークが、CR3にはあります。金物販売店の中には、非常に部品に精通したスタッフがいたりします。「その型番はもう廃番だけど、代替え品が出ていて、〇〇メーカーの××番というやつだよ」などと、詳しく教えてくれるのです。金物販売店に取扱いがない場合でも、ホームセンターの店頭で販売しているケースもあります。その場合にも、どのホームセンターに行けばどの製品が販売されている、ということが頭に入っていて、大抵のパーツは揃えることができます。



fig5-6 ハウス・リペアの協力者、村山一也さんは入
手できない部品のパーツを自作する。手前
にあるのは丁番を調整する道具(2012・8)

このパーツリサーチは、非常に時間を費やす作業です。住宅を訪問して交換作業を行う時間よりも、パーツを追跡するために要する時間のほうが圧倒的に長くなります。ただ、団地では、一つ見つけさえすれば、他の住戸でも使うことができますので非常に役立ちます。

部品販売を市場から閉鎖することで、修理のニーズを囲い込む製品が公共住宅でも多くあります。また、途中で改修した住宅ではまったく異なったタイプの部品に出会うこともあり、パーツリサーチだけでは解決が難しいことがあります。その場合には、パーツを製作します。パーツを製作するためのオリジナルの道具を自作しているため、微妙なパーツの寸法に合わせるすることができます。

アイデア商品と工夫

大工を引退してリペア・リフォーム事業と一緒に立ち上げた初期のスタッフは、自分の持っている知識や技術・ノウハウを生かして団地のちょっとしたニーズに対応するさまざまなリペア商品をつくりました。

団地のバルコニーでは物干し竿に背の届かない人も多くいます。そんな悩みを解消する縁台をつくって販売しました。併せてエアコン室外機を隠し、見栄えを良くするガーデニングに活用できるような箱も制作しました。

洗濯機防水パンの上のちょっとした隙間をつかってタオル収納家具を制作したこともあります。これらはいずれも団地ならではの、ちょっとした悩みを解決するための商品で、細かなニーズに対応しているものです。